

ながの協働ねっと 2023 年度通常総会

— 議 案 書 —



2023 年 5 月 30 日 (火) 18:00~19:00
もんぜんぷら座会議室 304

ながの協働ねっと 設立趣意書

<キャッチフレーズ>

「ながのの未来を創る、皆さんの新しいコミュニティです。」

<ミッション>

市民の自主性が活かされ、NPOが活躍する地域、多様な人々が結び合い、共に生きる未来志向の新しいコミュニティを創る

1 設立までの経過

市民公益活動センター（現・市民協働サポートセンター）設立から10年、「長野市にNPOのネットワークが欲しい!」という声が高まっていました。

設立の背景として、一つは24年4月より発起メンバーのNPO法人が毎月長野市民新聞「市民とNPOのひろば」編集委員会を開催してきたことです。交流が深まり、運営の悩みや地域問題を議論する場ができました。二つ目はセンター主催「NPOカフェまんまる」の交流がきっかけで市民や企業経営者らとの協働事業「忍者をふやそう大作戦」「食育劇団ええ〜っこ」が生まれてきたこと。三つ目は25年7月に開催したセンター10周年記念フォーラム開催を通して協働することの大切さを実感したことです。NPOの中からネットワーク設立を訴える声があがり、25年11月から10回に渡って検討を重ね、設立に至りました。

2 設立趣旨

ながの協働ねっとは「ながのの未来を創る、みんなの新しいコミュニティ」です。NPOがコーディネーター役となって、NPO同士はもちろん、市民・企業・行政・起業家ら多様な方々が集います。そして、市民が自主的につながり、未来志向で議論し、共に地域・社会の課題解決に向けた事業を企画実行することで、新しいコミュニティがここ長野に育つことを目指します。

具体的には二本の柱をミッションにしています。一本目は「NPOの自立と成長、ネットワークの拡大」として、定期的な交流会や相互支援プロジェクトを考えています。二本目は「NPOと市民・地縁団体・企業・社会起業家・行政との対話交流の促進と協働の創出」として、テーマを決めた交流会の開催や企業見学、商品・サービスの協働開発、プレゼンの場の設定などをニーズに合わせて企画する予定です。

平成26年7月11日

長野市新田町1485-1
ながの協働ねっと
(市民協働サポートセンター)

ながの協働ねっと

— 2023 年度通常総会次第 —

1 開 会

2 議長選出

3 審議事項

第 1 号議案 2022 年度事業報告の承認について

第 2 号議案 2022 年度決算報告の承認について

第 3 号議案 2022 年度監査報告について

第 4 号議案 2023 年度事業計画の承認について

第 5 号議案 2023 年度予算の承認について

第 6 号議案 役員改選について

4 その他

5 閉 会

【第1号議案】

2022年度 ながの協働ねっと事業報告

《各事業》

1 NPOの対話・交流、相互支援に関する事業

(1) 「TALK&TALK」の開催

- ・11月23日(祝)開催 地域づくり講座「ぼくらの協働をさがす旅にでかけよう！」
講座後開催。会員外の参加者も含めて講師と交流
会員団体から8名・会員外9名(講師含む) 合計17名参加

(2) 相互支援のきっかけづくり

(3) オンラインコミュニティの運営

- ・「facebook Messenger」等を活用しての情報交換。

2 NPOのネットワークの拡大に関する事業

(1) 会員の拡大・広報の強化

- ・長野市ながのまちづくり活動補助金の交付団体に対する勧誘活動 実施なし
- ・公式ホームページ・facebook ページ「ながの協働ねっと」での発信

(2) 協働プロジェクト等の検討・実施

- ・会員だけでなく、会員外団体からの提案による協働プロジェクトも検討する。
それにより会員拡大を図る 提案なし

3 NPOと協働先(市民・地縁団体・企業・社会的起業家・行政等)の対話・交流に関する事業

(1) 会員同士の交流会「TALK&TALK」開催 上記参照

(2) NPOと企業、行政、地縁団体、市民の交流

NPO、企業家、行政職員等の幅広い参加者を想定。会員拡大につなげる

① 企業との交流

② 行政との交流

- ・研修や「TALK&TALK」にて交流の機会を作った

③ 地縁団体との交流

- ・地域まんまるへの参加を予定したが、参加者なし

④ 学校との協働

- ・SDGsの授業で会員団体が講師となるための地盤づくり 実施せず

(3) 研修

- ・11月23日 地域づくり講座「ぼくらの協働を探す旅にでかけよう！」を(市民協働サポートセンター主催・地域づくりネットワーク長野県支部長野協議会共催)の共催団体となり、会員研修として位置づけた。会員団体から8名参加

4 NPOと協働先との協働の創出に関する事業

(1) 食育劇団ええ〜っこ

創作劇、民族芸能等を通じた食育の推進に関する活動

12月10日 キセキのみそ復活プロジェクトイベントに合わせて

新作上演

その様子はこちらから→

タイトル「信州味噌でぽんぽこ元気に生きてくさ!!」

出演：3名＋特別出演3名、裏方3名



(2) ながの忍者をふやそう大作戦

- ・ハート手裏剣寄付 申請団体の公募

2月募集開始、2団体申請。3月14日プロポーザルにて寄付額決定

- ・ダウン症長野ひまわりの会 28,000円(3月21日にイベント開催し、使用)
- ・一般社団法人医ケアの輪 22,000円(8月実施の旅行にて使用)
- ・Tシャツの販売

プロジェクトを立ち上げた宮下晃さん(元会員)に相談したところ、ご自分の関係者や戸隠での販売のため、すべて買い取ってもらったので在庫はなし

(3) キセキのみそ復活プロジェクト

当初の予定どおりに3年間の活動を2022年12月に終了。

活動終了の成果として、12/10に【キセキのみそ復活プロジェクト・感謝祭】を東部文化ホールにて開催。

当日は、活動を共にした市立長野中学校のみなさんには活動発表を、劇団ええ〜っこでは、長沼の災害からの復興の奇跡をメンバーにも出演していただき公演。小川醸造さんの味噌がまた鑑評会で賞をいただくという想定外のうれしい出来事もあり、大変有意義な感謝祭となった。

※入場者：100人、市立長野中学校からは15名。

なお、クラファンでの寄付はもちろん、それ以外にもたくさんいただいた寄付金(約15万)を、活動終了時に小川さんへ寄付させていただき、プロジェクトを閉じた。

今後は、プロジェクトとしては活動を終えたが、引き続き復興支援や小川醸造さんへの支援は継続。(協働ねっと事業としては終了)

(4) 寄付月間 ～Giving Decenber～

- ・NPOカフェまんまる(市民協働サポートセンター主催)の寄付テーマ交流会
2月9日開催(12月開催が延期となったため)「寄付」からはじまる新たな可能性をさがそう!～クラウドファンディングとバースデードネーションの事例から考える～の企画協力団体として、企画・運営に携わった。また、地域づくりネットワークからの助成金をながの協働ねっととして申請し、講師謝金などの資金調達もした。参加者31名(会員団体から8名)
- ・忍者を増やそう大作戦 ハート手裏剣寄付公募と審査会(12月以降)
→上記参照

【第2号議案】

2022年度 決算書<総括用>

2022年3月1日から2023年2月28日まで

ながの協働ねっと

(単位：円)

区分	一般会計	特別会計① ながの忍者をふ やそう大作戦	特別会計② 食育劇団ええ 〜っこ	計
前期繰越正味財産額	351,506	53,429	0	404,935
経常収益	191,007	33,300	0	224,307
経常費用	219,265	50,000	0	269,265
当期正味財産増減額	△ 28,258	△ 16,700	0	△ 44,958
次期繰越正味財産額	323,248	36,729	0	359,977
	323,248	36,729	0	359,977

2022.02.28

現金残高	32,357	8,551	0	40,908
預金残高	290,891	28,178	0	319,069
合計	323,248	36,729	0	359,977

2022年度 一般会計 決算書

2022年3月1日から2023年2月28日まで

ながの協働ねっと

(単位：円)

科 目	執行額	備 考
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	99,000	3,000×33団体
個人賛助会員受取会費	5,000	1,000円×3人、2000円×1人
2 受取寄付金		
受取寄付金	96	寄付金
3 受取助成金等		
受取助成金	75,000	寄付交流会助成(地域づくりネットワーク)
4 事業収益		
受取参加費		
5 雑収入	10,000	寄付月間企画協力団体費用
雑収益	1,909	模造紙販売
	2	利息
経常収益合計	191,007	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) その他経費		
委託料	33,000	ホームページ管理委託
諸謝金	75,000	寄付交流会謝金
旅費交通費	11,968	理事会参加旅費(三田・飯島・亀垣・藤牧・須磨・太田)
諸会費	7,000	まんまる主催「協働講座」11/23
消耗品	1,169	TALK&TALKお菓子代
その他経費合計	128,137	
事業費合計	128,137	
2 管理費		
(1) その他経費		
印刷製本費		事務局印刷機使用料
旅費交通費		
諸会費	7,738	地域づくりネットワーク他
支払手数料	786	振込手数料
雑費	120	郵便代
	2,484	ドメイン使用料
(2) 事務局協力費	80,000	幹事団体請負金として(長野県NPOセンターへ)
管理費合計	91,128	
経常費用合計	219,265	
当期経常増減額	△ 28,258	

2022年度 特別会計：ながの忍者をふやそう大作戦 決算書

2022年3月1日から2023年2月28日まで

ながの協働ねっと

(単位：円)

科 目	執行額	備 考
I 経常収益		
1 受取寄付金		
受取協賛金		
受取寄付金		
2 受取助成金等		
受取助成金		
3 事業収益		
(1) 多世代交流活動		
受取参加費		
(2) ボランティア・寄付活動		
忍者グッズ売り上げ	29,500	忍者Tシャツ販売、バッグ販売
	2,800	折り紙販売
	1,000	テーブル貸し出し
4 雑収入		
一般会計からの繰入金		
経常収益合計	33,300	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) その他経費		
忍者Tシャツ等仕入原価		
印刷製本費		
消耗品費		
支払寄付金	50,000	ハート手裏剣寄付(寄付月間12月予定)
事業費合計	50,000	
経常費用合計	50,000	
当期経常増減額	△ 16,700	
前期繰越額合計	53,429	
次年度繰越合計	36,729	

【第3号議案】

監査報告書

2023年 5月 11日

ながの協働ねっと

監事

青沼 えみ子 

2022（令和4）年3月1日から2023（令和5）年2月28日までの会計年度における会計及び財産の監査を行い、次の通り報告致します。

決算書並びに財産について帳簿類と証拠書類を照合し詳細に監査したところ、いずれも適正であることを認める。

以上

【第4号議案】

2023年度 ながの協働ねっと事業計画

《各事業》

1 NPOの対話・交流、相互支援に関する事業

- (1) 「TALK&TALK」の開催
 - ・研修等に合わせて開催
- (2) 相互支援のきっかけづくり
 - ・会員研修等を活用して実施
- (3) オンラインコミュニティの運営
 - ・「facebook Messenger」等を活用しての情報交換。

2 NPOのネットワークの拡大に関する事業

- (1) 会員の拡大・広報の強化
 - ・長野市ながのまちづくり活動補助金の交付団体に対する勧誘活動
 - ・公式ホームページ・facebook ページ「ながの協働ねっと」での発信
- (2) 協働プロジェクト等の検討・実施
 - ・会員だけでなく、会員外団体からの提案による協働プロジェクトも検討する。それにより会員拡大を図る

3 NPOと協働先（市民・地縁団体・企業・社会的起業家・行政等）の対話・交流に関する事業

- (1) 会員同士の交流会「TALK&TALK」開催
規模を縮小し、複数回開催。それぞれの会員の活動を知る機会とする。それにより連携と協働を促進する。市民協働サポートセンターとの共催も検討する
- (2) NPOと企業、行政、地縁団体、市民の交流
NPO、企業家、行政職員等の幅広い参加者を想定。会員拡大につなげる
 - ① 企業との交流
 - ・各プロジェクトの活動を通して実施
 - ・会員企業と企画
 - ② 行政との交流
 - ・(3)に合わせて交流会開催
 - ③ 地縁団体との交流
 - ・市民協働サポートセンター事業「地域まんまる」への参加
 - ④ 学校との協働
 - ・SDGsの授業で会員団体が講師となるための地盤づくり
- (3) 研修
 - ・7月23日、10月1日、市民協働サポートセンター主催で開催の「NPOスクール」を研修として位置づけ、1団体につき参加費1,000円補助予定。

4 NPOと協働先との協働の創出に関する事業

(1) 食育劇団ええ〜っこ

創作劇、民族芸能等を通じての食育の推進に関する活動
オファーがあれば対応

(2) ながの忍者をふやそう大作戦

・ハート手裏剣寄付 申請団体の公募(残預金 3 万円程度)

(4) 住民ディレクター活動推進プロジェクト

NPOの活動を生き生きと動画で伝えることが容易になってきた昨今。また、SNSなどでの発信が広報効果があることなどを踏まえて、住民ディレクターの手法を学びあったり、スキルをもつ団体が他団体と協働することで発信力を高めたりできるよう、講座や交流会などの機会を創出する。市民協働サポートセンター講座・交流会との連携も含めて検討していく。

5 アドボカシー活動

(1) 市長選に合わせて検討する

【第5号議案】

2023年度 予算書<総括用>

2023年3月1日から2024年2月29日まで

ながの協働ねっと

(単位：円)

区分	一般会計	特別会計① ながの忍者をふ やそう大作戦	特別会計② 食育劇団ええ 〜っこ	計
前期繰越正味財産額	323,248	36,729	0	359,977
経常収益	102,000	3,500	0	105,500
経常費用	192,008	40,000	0	232,008
当期正味財産増減額	△ 90,008	△ 36,500	0	△ 126,508
次期繰越正味財産額	233,240	229	0	233,469
	233,240	229	0	233,469

2022.02.28

現金残高	32,357	8,551	0	40,908
預金残高	290,891	28,178	0	319,069
合計	323,248	36,729	0	359,977

2023年度 一般会計 予算書

2023年3月1日から2024年2月29日まで

ながの協働ねっと

(単位：円)

科 目	予算額	備 考
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	99,000	3,000×33団体
個人賛助会員受取会費	3,000	1,000円×3人、2000円×1人
2 受取寄付金		
受取寄付金		
3 受取助成金等		
受取助成金		
4 事業収益		
受取参加費		
5 雑収入		
雑収益		
経常収益合計	102,000	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) その他経費		
委託料	33,000	ホームページ管理委託
諸謝金		
旅費交通費	12,000	理事会参加旅費(三田・飯島・亀垣・太田)
諸会費	10,000	田辺スクール(1団体1000円補助)
消耗品	5,000	TALK&TALKお菓子代
プロジェクト事業等繰出金	30,000	2事業×15000円
その他経費合計	90,000	
事業費合計	90,000	
2 管理費		
(1) その他経費		
印刷製本費	10,000	事務局印刷機使用料
旅費交通費		
諸会費	7,738	地域づくりネットワーク他
支払手数料	786	振込手数料
雑費	1,000	郵便代
	2,484	ドメイン使用料
(2) 事務局協力費	80,000	幹事団体請負金として(長野県NPOセンターへ)
管理費合計	102,008	
経常費用合計	192,008	
当期経常増減額	△ 90,008	

2023年度 特別会計：ながの忍者をふやそう大作戦 予算書

2023年3月1日から2024年2月29日まで

ながの協働ねっと

(単位：円)

科 目	予算額	備 考
I 経常収益		
1 受取寄付金		
受取協賛金		
受取寄付金		
2 受取助成金等		
受取助成金		
3 事業収益		
(1) 多世代交流活動		
受取参加費		
(2) ボランティア・寄付活動		
忍者グッズ売り上げ	3,500	折り紙販売
4 雑収入		
経常収益合計	3,500	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) その他経費		
忍者Tシャツ等仕入原価		
印刷製本費		
消耗品費		
支払寄付金	40,000	ハート手裏剣寄付
事業費合計	40,000	
経常費用合計	40,000	
当期経常増減額	△ 36,500	
前期繰越額合計	36,729	
次年度繰越合計	229	

【第6号議案】

役員選任案

区分	役員名	所属団体	任期
代表理事	飯島 美香	NPO法人食育体験教室コラボ	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
副代表理事	川崎 昭仁	NPO法人ヒューマンネットながの	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
理事	小笠原 憲子	NPO法人こどもの城いきいきプロジェクト	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
理事 (事務局)	阿部 今日子	NPO法人長野県NPOセンター	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
理事	三田 今朝光	NPO法人松代のまちと心を育てる会	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
理事	太田 秋夫	Hope Apple	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
理事	河西 映子	第三地区住民自治協議会	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
理事	亀垣 嘉明	ながの電気クラブ	2023年5月30日から 2025年5月29日まで
監事	佐藤 真耶	NPO法人エリアネット	2023年5月30日から 2025年5月29日まで

地域づくり講座「協働を改めて考える～ぼくらの協働を探す旅にでかけよう!!」

- 日 時：2022年11月23日(水・祝) 13:30～16:30
- 場 所：もんぜんぷら座 304 会議室+オンライン
- 参加者：リアル 37名・オンライン 7名 計 44名
- 講 師：長浜洋二さん(モジョコンサルティング合同会社)



■ 第一部「グッドプラクティスの共有」

● 信州さらしな田毎の月プロジェクト実行委員会 鹿田敦巳さん

千曲市の棚田にペットボトルランタンを設置してライトアップする活動。企業、地域住民、学校が一体となって進めています。ランタンも手作りで作っており、それぞれが役割をもてるようなかわりをうまく作り出しながら、持っている力を活かし合って活動をしています。資金調達も実行委員がそれぞれのバックボーンをうまく活用して行ったとのこと。関わる人や団体が増えることで活動が広がり、充実するとわかりました。



● NPO法人みどりの市民 渡辺ヒデ子さん・大野真保さん

学生の地域活動体験プログラム「地域まるごとキャンパス」をきっかけに、県立大宮下ゼミのメンバーからみどりの市民へのはたらきかけがあり、5人の学生とNPOが協働で市内のエシカル調査を実施しました。スキルや知識のあるNPOと、機動力のある学生と一緒に活動することで互いの得意を活かし合いながら充実した活動となりました。両者は、最初から、丁寧にコミュニケーションを重ね、信頼関係を築きました。今後も活動を充実させていく予定です。



● 企業ユニオン 戸川浩司さん

J T(日本たばこ産業株式会社)の戸川さんが、企業の地域貢献活動の推進のため、他の企業にも呼びかけてネットワーク化。地域とのつながりによって社会全体をより良く、活性化する活動をしています。1企業だけではできませんが、一緒にやることで貢献度が上がります。現在は長野駅前周辺の企業に呼びかけて1カ月に1回のゴミ拾いを実施しています。毎回30人以上の人が集まって活動中です。



第二部「トークセッション」



講師長浜さんが3人の登壇者から協働に必要なキーワードを抽出しながら、受講者にわかりやすく議論を進めました。

どの活動も、主になってコーディネートする人の存在はもちろん、一人だけに頼り過ぎず、参画する人たちがコーディネーションのエッセンスをもって活動していたことが伺えました。協働するにあたって、それぞれの「ミッション」の重なり合い、目的の共有の大切さ、コミュニケーションの大切さが浮かび上がりました。また、協働で活動することが地域に、社会にインパクトをもたらしていることも見えてきました。

■ 第三部「講義」



まちづくりの支援経験豊富な講師・長浜さんから、協働の成り立ちや協働を進めるための大切な考え方やコツについて解説。

協働という言葉からは、しっかりとした組織と組織がつながるイメージを抱く方が多いかもしれませんが、規模も進め方も多種多様です。自分たちだけで解決できない課題を誰と、どんなやり方で、どう分担してやっていくのか。最初は必ずしも組織対組織だけではない多様な主体がつながり合って、「協働」の輪を作っていくようなイメージを長浜さんから共有。

さらに、ひとつの目標に向かって進むためにも、丁寧な関係づくりから、強みを生かし合い、それぞれに成長やメリットがあることが大切だと学びました。また、協働を進めるうえで、大切にしたいのが「心理的安全性」。対話を促進し、有益な議論になるため、それぞれが言いたいことを言い合えるためです。中間支援としてコーディネートする際には、本音で語り合える場を設えることで協働が促進されるということを理解して進めなければと確認しました。

■ 第四部「グループワーク 協働のパートナーを書き出してみる作業」

最後は、各グループごと、「子育て支援」「防災活動」「居場所」「観光農林業支援」などのカテゴリーごとに想定できる協働相手を挙げてみる作業。具体的な社名や団体名を書く人もあり、模造紙がびっしり埋まったグループも。具体的な事業を考えたグループもあったようで、熱い議論が交わされました。終了後も名刺交換などが活発に行われていました。

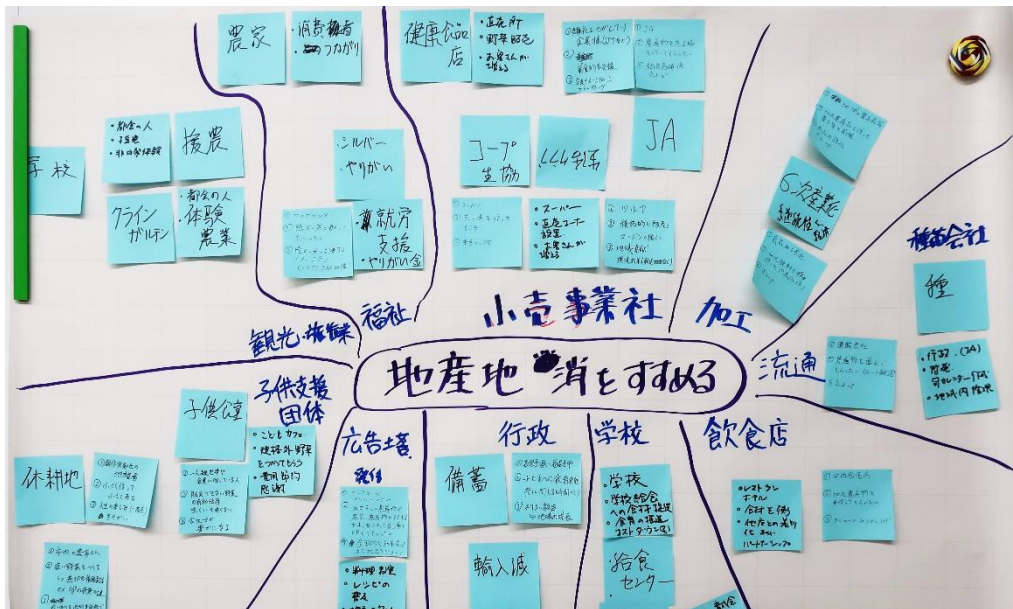


「協働」と一言では括れない多様な関係性こそが豊かな地域づくりの手法の一つとして、今必要とされていると感じた講座でした。この出会いがまた新たな協働に発展しますように！

講座終了後のオプション企画として、ながの協働ねっと主催の交流会も開催、長浜さんには残っていた
 だき、追加の質問や意見交換ができました。最後は記念写真!!!



☆☆☆ワークショップの模造紙から・・・☆☆☆



「寄付」からはじまる新たな可能性をさがそう！

～クラウドファンディングとバースデードネーションの

事例から考える～

日 時：2023年2月9日(木) 17:30～19:30

場 所：もんぜんぷら座 304 会議室

参加者：31人（他関係者9人）

パネリスト：寺澤順子さん、亀垣嘉明さん、波多腰遥さん、寺田ユースケさん

内 容：

▶第一部「バースデードネーションを知ろう」

バースデードネーションとは、自分の誕生日や、団体の設立記念日といった特別な日に合わせて寄付を集める方法です。手数料を引いた額が、事前に設定した寄付先の団体の元に届きます。昨年ご自身の誕生日に合わせてバースデードネーションを実施した亀垣嘉明さん、寺澤順子さんから、そのときの思いを聞きました。

亀垣さんがバースデードネーションを知ったのは2017年都内で行われたイベント。「自分の誕生日に合わせて私が支援したいと思う団体に支援してください」というしくみがとてもおもしろいと感じ「いつか挑戦したい」と胸に秘めていたそうです。亀垣さんの挑戦を見て、「こうした運動が広がってほしい」と続いた寺澤さん。

「自分の誕生日に自分が生まれてきたことに感謝し、次の人・社会のために何ができるかを1年に一回考えるきっかけになる」と寺澤さんは話しました。

2人ともこの挑戦の裏側では、「自分の情報をどこまでさらけ出すのか」「周りは共感してくれるのか」などという葛藤も。しかし、実際に寄付してくれた人の中には「いいコト教えてくれてありがとう」という言葉をかけて支援してくれる人もいたそうです。



▲「亀垣さんに負けたくなかった！
(笑)」と寺澤順子さん

バースデードネーションは少額から始められること、「プレゼント」として寄付をするしくみなので「リターン」が求められるものではないことなど、寄付の新しい形として存在感が増しそうな予感を感じたパネルトークとなりました。



▲亀垣嘉明さん

▶第二部「クラウドファンディングを知ろう」

第二部はクラウドファンディングの基礎的な知識と、経験者からの成功と失敗のエピソード。

参加者の中にはクラウドファンディングにこれから挑戦したいと考えている人もおり、「そもそもクラウドファンディングとは何か？」という話や実際に進める方法を、多くのクラウドファンディング支援をしてきた波多腰遥さんから事例を交えて聞きました。

そもそもクラウドファンディングとは、ネット上で多くの人々から資金を調達すること。さまざまな形がありますが、その9割は「購入型」でありリターンが発生します。そのため、リターンがあまりに高額だったりすれば手元に残るお金も少なくなる、手数料も考慮する、その上で集める金額が妥当なのかきちんと考えないといけないそうです。「クラウドファンディングはやれば集まるという



▲波多腰遥さん

ものではない、どういう目的でやりたいのか、終了した後に支援者とどんな関係性でいたいのか、自分自身が事業を見直すいい機会にもなる」と波多腰さんは話しました。



▲寺田ユースケさん

その後実際にクラウドファンディングに挑戦した寺田ユースケさんが登壇し、自身の経験を赤裸々に語ってくれました。寺田さんが挑戦したのは2018年。車イスでヒッチハイクの旅の資金を集めるプロジェクトで目標金額を上回る194万円を達成しました。実施後の感想は「めちゃくちゃ疲れた」。その理由は、目標金額の30%をまずは自力で集めるというアドバイスの元、開始までの2か月に自分の周りの人に声をかけつくしたそうです。いかにプロジェクトを盛り

上げられるのか、その存在感を、支援の検討をしてくれる人にどうアピールできるのか。そのためにも準備期間が肝であるといったアドバイスがありました。最後に寺田さんから、「相手からお願いされたときに返せるのか。自分は与えることができるのかという視点を持ってクラウドファンディングを検討してほしい」とメッセージがありました。

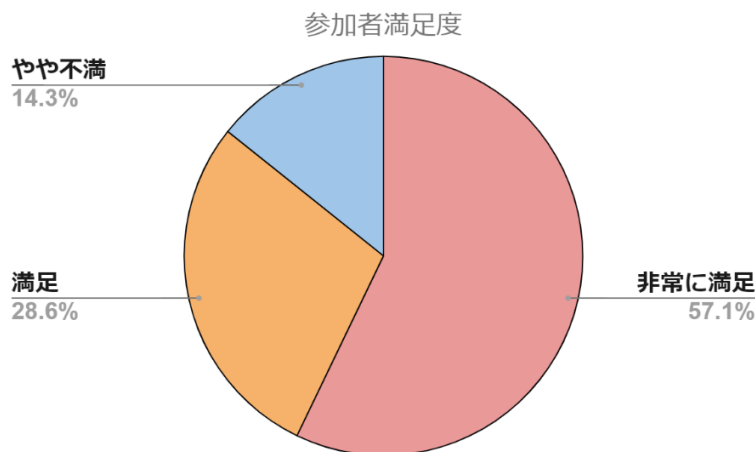
苦労も準備もたくさんありますが、クラウドファンディングは誰もが活動に参加できる機会。その機会を創ることを楽しみながらやってほしいと登壇者からのエールがあり、とても熱気のある会になりました。

▶最後は質疑応答タイム。著作権の問題やプロジェクトページを作るうえでのポイントなどを話しました。



▶参加者の声（アンケート抜粋）◀

- ・貴重な話をありがとうございました！
- ・バースデーネーションを組織のメンバーで行う事や、自分の誕生日に世の中へ寄付というギフトを送る考え、寄付をいただくにあたり自分が逆に寄付できるかな?という部分などを考えてお願いする事など、わかっていそうで落としがちな部分かと思えます言葉にさせていただきありがとうございました。
- ・登壇者の方々から、前向きかつ赤裸々なトークがあり、クラファンの入門的なお話はもとより、近年大きく発展していることを学びました。
- ・学び、笑いが多かった。参加者のクラファンに関する熱量も感じた！
- ・バースデーネーションやクラウドファンディングの一般的な基礎知識だけでなく、それぞれを利用した時の裏(苦労)話を聞いたことで、自分にとってプラス・マイナス(になり得る)になる部分があることを学べたからです。
- ・基本が分かった。関心が持てた。
- ・夢を理解してくれる仲間の方々と同じ地域にいられるのは、すごく大切と気づきました。
- ・いろんな話が聞け、またつながりができ、楽しいイベントでした。
- ・経験者、運営者の話がとても良かった。負の部分も聞けて良かった、
- ・集まったの会は久しぶりでした。交流できる機会がとても大切だと感じました。
- ・受けた恩を忘れるない。人として大切なあたり前のこと。



パネリスト・参加者のみなさん、ありがとうございました！！